

今月の御教え

天地金乃神は昔からある神である。途中からできた神ではない。天地ははやることがない。はやることがなければ終わりもない。天地日月の心になることが大切である。信心はしなくてもお蔭はさずけてある。

……「天地は語る」第三条……

解説

この金光大神様の信心が広まるにつれ、近隣から多くの人々が参拝するようになりましたが、それらの人々から「ここはどの様な神様をお祀りされているのですか？」と聞かれることが度々あったと思われまします。その時、教祖金光大神様は「ここにお祀りしている神さまは宮社にお祀りしている神さまとは違って天地万物を司る天地の親神様であります」と教えられ、そして、「この天地金乃神様は信心のあるなしにかかわらず私達人間全てに遍く、日の光、熱、空気、水など天地のお恵みを隔てなく下さっているのではありませんから、私達は、その天地日月の心を頂き、大きな心で分け隔てなく人々に接してゆくことが大切であります。」と御理解下さっているのではありません。私達もこの御教えを頂き、天地日月の心にならせて頂くべく一層、信心の稽古に努めさせて頂きたいものであります。